「ＵＦＯ」現代の賓客

この宇宙に空飛ぶ円盤は存在するのか。私が円盤に興味を持ったのは十数年も前の事である。手作りの望遠鏡で星を見ている時、青く輝く星にも知的生命体は住んでいるのか、これが始まりである。紙面の都合でここでは、さわりだけにとどめたい。

そもそもＵＦＯとはアメリカ空軍用語である。

ところで私たち人類は銀河系小宇宙に住んでいる。

直径十万光年、すなわち千億キロの千万倍の大きさで、この銀河には恒星は数千億ある、その中のまさに平凡な恒星、太陽の第三惑星に住む生物である、となりの銀河アンドロメダ星雲までは実に二百万光年の距離が有り、宇宙にはこの様な銀河は数千億のオーダで有る。しかも大宇宙は現在も膨張している。光の速さの十分の九のスピードで遠ざかる銀河も見つける事が出来る。まさにこれ程果てしなき大宇宙に、知的生命体は地球人だけと考えるのは冒険すぎないだろうか。

確かに科学的な立証は現在は難しい。

米空軍の公式ＵＦＯ機関プロジェクト・ブルーブックも「ＵＦＯは米国の安全保障にとって脅威ではなく、又、地球外の物ではない」と結論づけ多くをベールの影に残したまま突然終えてしまったが、ＵＦＯに対する真摯な追求を全ての人が放棄したのではない。

例えば、グレナダ国のゲーリー首相は、３２回国連総会において史上初めて、ＵＦＯ問題を国連に正式議題として上程した。

又、これまでにも地球上には宇宙の知的生命体の介入を仮定すると、理解出来る物が多く残っている。

ナスカ平原・エジプトのピラミッド・イースタ島のモアイ・サクサウァマンの砦など数えあげるときりがない。

ＵＦＯと一口に云っても型も大きさも、さまざまである。数十センチから数キロの母船まで、型も葉巻型・ドーナツ型・土星型・又、あまりにも有名はアダムスキー型、アメリカのジェミニの飛行士が窓から写した月面を飛行する宇宙ボタル型ＵＦＯなどまさに多種多様である。

これらの事実からも今や私達は非科学的という理由だけでＵＦＯを否定するのではなく真実を見つめる時である。

人類でさえ翼を手にしてから数十年で月面に立った事実は、まだ記憶に新しい。

確かに、目撃例や写真の全てが真実ではないかも知れない。

しかし、その中の数パーセントは今の科学では解明出来ないものがある事も事実である。

そこでなぜＵＦＯは地球に飛来するのか。

彼らヒューマノイドは地球の危機、人心の荒廃を訴えていると云われている。つまり、私達の緑色に光り輝く宇宙船地球号を不時着させないためにエゴを捨て、生命の危機を人々にあたえてはならないと、彼らは今日も訴えているのです。

私達、一人一人が生命体であり、地球人であると同時に宇宙の一員であると・・・・・・。

研究所タイムス　第４３号　１９７８年１２月２５日